

小学校国語

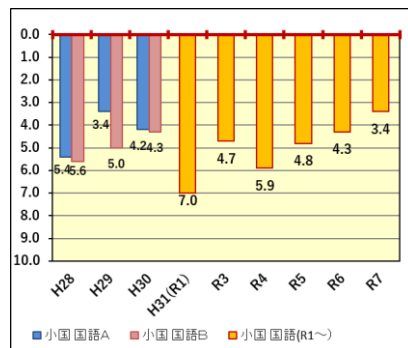
平均正答率は65%である。「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」といった、「知識及び技能」に関する問題については概ね理解できている一方で、「書くこと」の領域では、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。この課題に対して、目的や意図を明確にして書くなど、自分の考えが相手に伝わるように、文章を工夫して書くことに関する指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

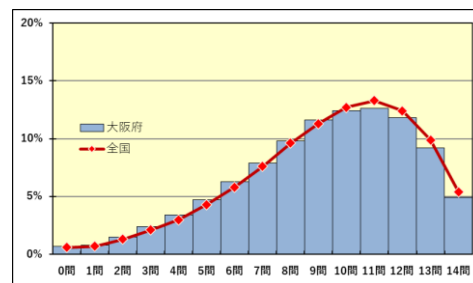
平均正答数	大阪府	9.2 問 / 14 問
	全国	9.4 問 / 14 問
平均正答率	大阪府	65 %
	全国	66.8 %
無解答率	大阪府	3.4 %
	全国	3.3 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

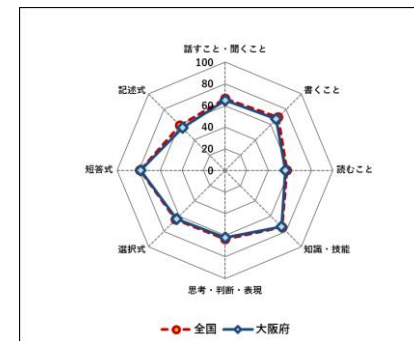


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「記述式」「読むこと」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

【成果】

- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは概ねできている。(漢字を使って書き直す [2四アイ])
- ◇時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことは概ねできている。([資料1]を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する [3一])
- ◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることは概ねできている。([木村さんのメモ]の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く [3二 (1)])

【課題】

- ◆書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題がある。([「ちらし」]の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する [2一])
- ◆目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。([「ちらし」]の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く [2三])
- ◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。([「話し合いの様子」]の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する [3三 (1)])

各領域における授業づくりのポイント

【話すこと・聞くこと】

- 知りたいことについて、自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じたことなどを、聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、互いに結び付けて関係を明確にしたりして、伝え合う内容を検討する場面を設定する。
- 自分が知りたい内容について、追加の質問をしながら理解を深め、話しての考えと自分の考えを比較しながらまとめることができるようにする。

【書くこと】

- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりしながら必要な情報を選び、伝えたいことを明確にして書くことができるようにする。
- 書く目的や意図を明確にした上で、読みての立場に立って「どこを詳しく書く必要があるか」「どこを簡単に書いた方が効果的か」について判断しながら書き表し方を工夫できるようにする。

【読むこと】

- 読む目的を明確にし、「何が書かれているか」といった文章全体の構成や必要な情報を捉え、要旨を把握することができるようにする。
- 複数の資料を結び付けて読むことができるように、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む活動を取り入れるようにする。

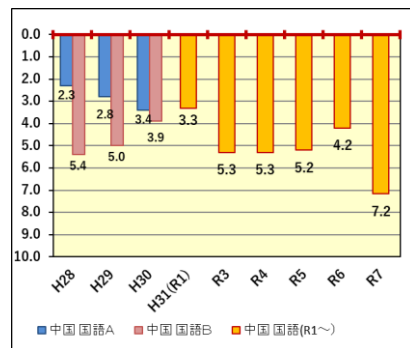
中学校国語

平均正答率は52%である。文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること（「読むこと」の構造と内容の把握）は概ねできている。一方、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと（「書くこと」の考えの形成、記述）に課題がある。この課題に対して、意図的、計画的に、丁寧に学習過程をたどる指導の充実が求められる。

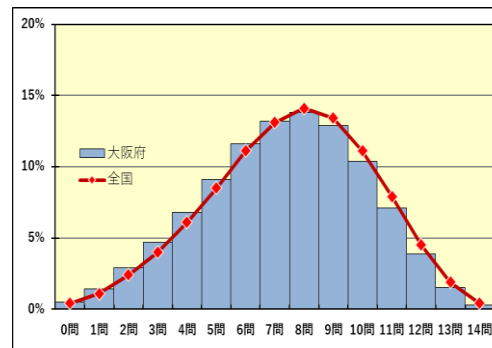
正答率・無解答率の状況

平均正答数	大阪府	7.3 問 / 14 問	
	全国	7.6 問 / 14 問	
平均正答率	大阪府	52	%
	全国	54.3	%
無解答率	大阪府	7.2	%
	全国	6.7	%

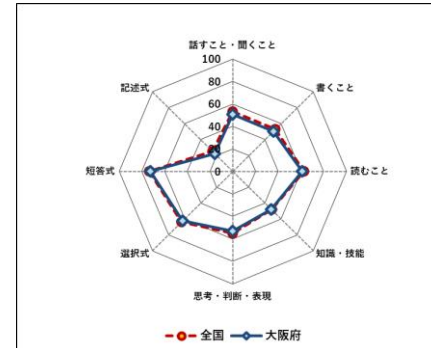
無解答率の推移の状況



正答数分布の状況



領域・観点・問題形式別の状況



* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

大阪府の正答数分布の状況は、8問を頂点としたやや右寄りの山型を描いている。

レーダーチャートの描くラインは、「記述式」で著しく低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

【成果】

- ◇ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはできている。（ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する [1二]
- ◇ 表現の効果について、根拠を明確にして考えることはできている。（物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する [3一]
- ◇ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。（「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く [3二]

【課題】

- ◆ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。（ちらしの読みに向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く [1四]
- ◆ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。（「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く [3四]
- ◆ 読みでの立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。（手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く [4二]

各領域における授業づくりのポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話すこと・聞くことの活動をICT端末を活用するなどして撮影し、見返しながら、良い点や改善点などについて考え、助言し合うような言語活動を取り入れる。

【書くこと】

- 「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に位置付く各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるよう、意図的・計画的に、丁寧に学習過程をたどる指導を充実させる。
- 生徒が日常の書く活動に生かすことを意識しながら学習できるようにする。

【読むこと】

- 文学的な文章を読む際には、言葉をてがかりにししながら文脈をたどる中で、語感を磨き、語彙を豊かにできるようにする。
- 説明的な文章を読む際には、文章と図表などを結び付け、図表などが文章のどの部分と関連しているのかやどのような効果があるのかを確認したり、書きての意図を正確に読み取ったりすることを意識させる。

小学校算数

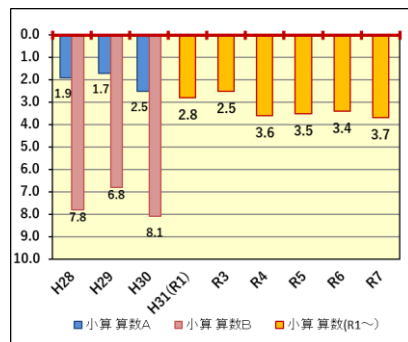
平均正答率は58%である。「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」や「異分母の分数の計算（加法）をすること」については、概ね理解できている。一方、「目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現すること」や「数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、異分母の加法の計算の仕方を統合的・発展的に考察すること」等に課題が見られ、更なる指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

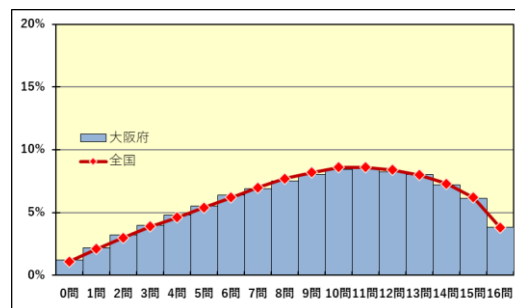
平均正答数	大阪府	9.2問 / 16問
	全国	9.3問 / 16問
平均正答率	大阪府	58 %
	全国	58.0 %
無解答率	大阪府	3.7 %
	全国	3.6 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

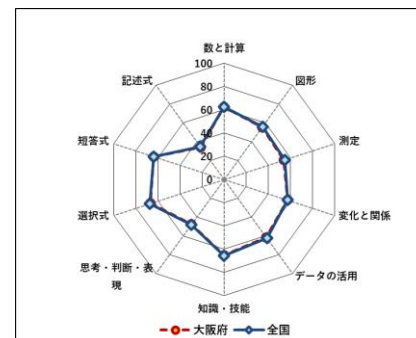


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「数と計算」は高い値を示している。また、「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

【成果】

- ◇異分母の分数の加法の計算をすることはできている。
($1/2 + 1/3$ を計算する。[3] (4))
- ◇伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできている。
(新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。[4] (1))

【課題】

- ◆目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
(都道府県Aのプロコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。[1] (2))
- ◆台形の意味や性質についての理解に課題がある。
(方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ。[2] (2))
- ◆分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。
($3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。[3] (2))

各領域における授業づくりのポイント

【数と計算】

- 分数の加法・減法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法・減法に帰着できるようにし、その過程を筋道を立てて表現できるようにする。

【図形】

- 図形の置き方がいろいろな向きになっていても、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形を弁別できるようにする。

【変化と関係】

- 示された情報から、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにする。

【データの活用】

- 様々なグラフのよさや特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断できるようにする。また、その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを意識させることで、判断の理由を他者に分かりやすく表現できるようにする。

中学校数学

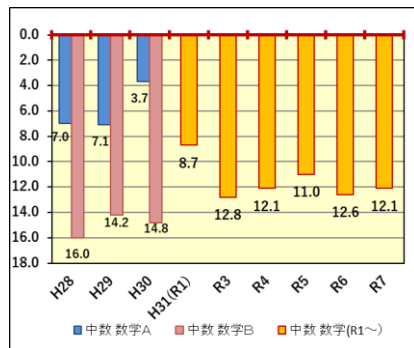
平均正答率は47%である。「多角形の外角の意味」や、「事象に即してグラフから必要な情報を読み取ること」については、概ね理解できている。一方、「素数の意味を理解すること」や「相対度数の意味を理解すること」など、知識の本質的な理解や、数や図形の性質が成り立つ根拠を論理的に説明することなどに課題がある。この課題に対して、見方・考え方を含めた既習事項をその後の単元の学習で活用して問題解決をめざすような単元設計が求められる。

正答率・無解答率の状況

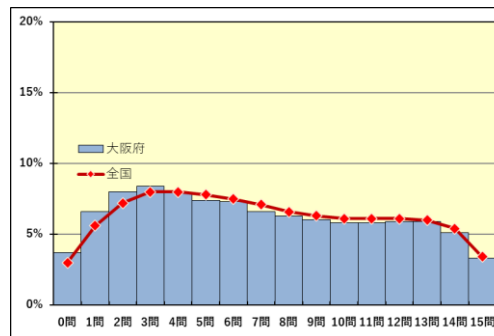
平均正答数	大阪府	7.0 問 / 15 問
	全国	7.2 問 / 15 問
平均正答率	大阪府	47 %
	全国	48.3 %
無解答率	大阪府	12.1 %
	全国	10.6 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

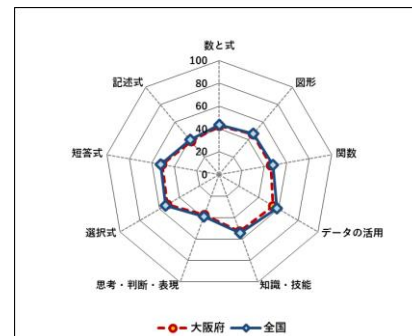


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、3問を頂点としながら、台形のような形を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

【成果】

- ◇多角形の外角の意味は概ね理解できている。(△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める [3])
- ◇事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることはおおむねできている。(A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ [8] (1))

【課題】

- ◆素数の意味を理解することに課題がある。(1から9までの数の中から素数を全て選ぶ [1])
- ◆相対度数の意味を理解することに課題がある。(ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める [5])
- ◆式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する [6] (2))
- ◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。(平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する [9] (3))

各領域における授業づくりのポイント

【数と式】

○数の性質が成り立つ根拠を論理的に説明する学習では、説明の中の数式が何を表しているのかなどを読み取り、論理的な説明の構造を理解できるようにする。

【図形】

○図形の性質が成り立つ根拠を論理的に説明する学習では、前時と本時の学習内容とを関連付けて捉えられるようにするなど、単元を通して論理的に説明する力を育むようにする。

【関数】

○具体的な場面における数量関係について考える中で習得した知識及び技能を活用するなどして、単元を通して、生きて働く知識及び技能の習熟につなげられるようにする。

【データの活用】

○データの分布状況を比べ、考察するための1つの手段としての「相対度数」の意義を実感できるよう、データの分布状況の比較の場面や、事象の起こりやすさを考察する場面などで、相対度数を活用して問題解決の方法やその根拠を説明できるようにする。

小学校理科

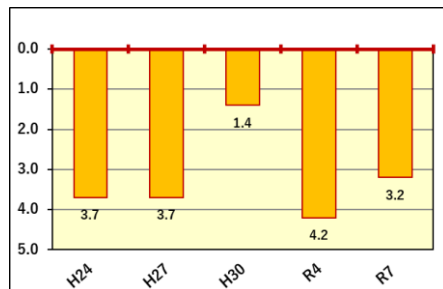
平均正答率は55%である。赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することについては、概ねできている。一方、乾電池のつなぎ方について理解することに課題がある。この課題に対して、見通しをもって問題解決の活動に取り組むことが求められる。

正答率・無解答率の状況

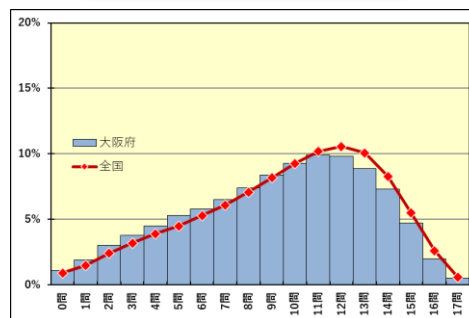
平均正答数	大阪府	9.3 問 / 17 問
	全国	9.7 問 / 17 問
平均正答率	大阪府	55 %
	全国	57.1 %
無解答率	大阪府	3.2 %
	全国	2.8 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

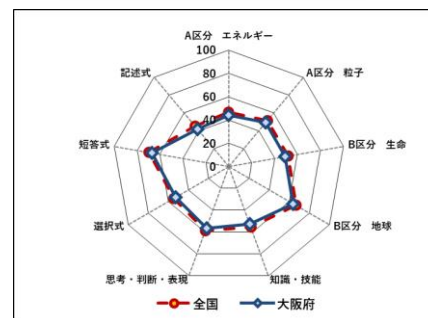


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、11問を頂点とする右寄りの山型となっている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

【成果】

- ◇ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することはできている。（赤玉土の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く。①（1））
- ◇ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することはできている。（【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ。①（3））

【課題】

- ◆ 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識の習得について課題がある。（乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。②（4））
- ◆ 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することに課題がある。（水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ。④（2））
- ◆ 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することに課題がある。（ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。③（3））

授業づくりのポイント

【問題解決の活動の充実】

- 児童に見いだしてほしい問題や課題を検討し、児童自身が見いだせるような事象を検討する。
- 問題解決の活動の中で、児童に働かせる見方・考え方を確認する。
 - ・各領域で示されている、主として働かせる見方を参考にする。
 - ・考え方については、各学年で主に育てたい問題解決の力との関係を意識する。
- 児童が主体的に問題解決に取り組めるよう、見通しをもたせる。
 - ・予想や仮説を設定する時間を大切にすることで、児童が目的意識をもって観察、実験に取り組むことができるようにする。
 - ・考察についても、予想や仮説を設定する活動が充実することで、児童自身が、予想や仮説があっていたのかを確認し結論を導くことができるようにする。
- 観察や実験での直接体験を大切にすること。

【日常生活や社会との関連の重視】

- 他教科等との関連を図った学習活動を意識する。
 - ・国語科の「書くこと」の指導の中で、考察の表現を題材にすることで科学的に表現する力の育成を図る。
 - ・社会科の身近な地域や市町村の様子で扱う方位に関する内容と、太陽と地面の様子の方位との関連を図る。
- ものづくりの活動を充実させる。
- 自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深めることができるようにする。

中学校理科

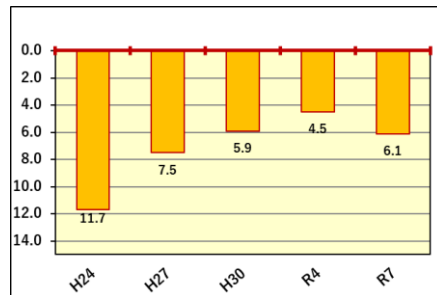
平均正答率は45%である。加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能は、概ね身に付いている。一方、露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに課題がある。この課題に対して、実際の露頭を観察したり、再現実験に取り組んだりすることが求められる。

正答率・無解答率の状況

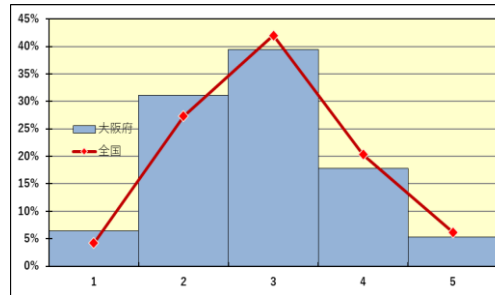
平均正答数	大阪府	2.7 / 6 問
	全国	2.9 / 6 問
平均正答率	大阪府	45 %
	全国	48.3 %
無解答率	大阪府	6.1 %
	全国	4.6 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況



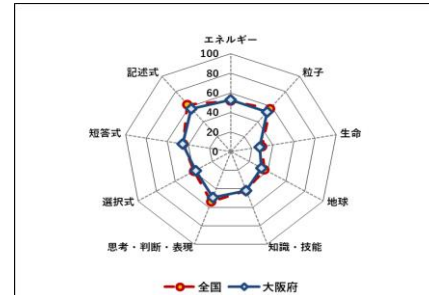
IRTバンドの分布



大阪府の正答数分布の状況は、バンド3を頂点とする山型を描いている。

* IRTバンドとは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「知識・技能」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

【成果】

- ◇ 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することはできている。（水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程における自身の振り返りを記述する。[1]（6））
- ◇ 身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗が付いている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている。（抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する。[3]（2））
- ◇ 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能は身に付いている。（加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する。[5]（1））

【課題】

- ◆ 露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈することに課題が見られる。（地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する。[1]（3））
- ◆ 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに課題がある。（「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する。[1]（2））

授業づくりのポイント

【科学的に探究する学習の充実】

- 生徒に見いだしてほしい問題や課題を検討し、生徒自身が見いだせるような事象を検討する。
 - ・ 提示した事象に触れる時間を十分確保することで、生徒が主体的に問題や課題を見いだすことにつながる。
- 生徒が主体的に探究に取り組めるよう、見通しをもたせて観察、実験を行う。
 - ・ 予想や仮説を設定する時間を大切にすることで、生徒が目的意識をもって観察、実験に取り組むことができる。
 - ・ 考察についても、予想や仮説を設定する活動が充実していると、生徒自身が、予想や仮説があっていたのかを確認することで結論を導くことにつながることを意識できる。
- 観察や実験での直接体験を大切にする。
 - ・ 理科の観察や実験は直接体験が基本であり、実際に生徒自身が体験したことの方が、動画の実験映像などよりも内容を意識し、より主体的に取り組むことにつながり、資質・能力の育成につながる。

【日常生活や社会との関連の重視】

- 日常生活や社会とのつながりを意識づける。
 - ・ 小学校よりも、概念的な内容や原理、法則を扱うことが多いため、身の回りのものとどのようにつながっているかを意識させることで、理科の有用性を実感したり関心を高めたりすることができる。